

成長する 成蹊大生 の会議

学生 座談会



経営学部
総合経営学科4年

理工学部 理工学科
機械システム専攻4年

経済学部
現代経済学科4年

法学部
法律学科4年

文学部
英語英米文学科4年

成蹊大学で4年間で過ごした学生たちに聞く！ 「成長できたこと」「もっと身につけたかったこと」とは？

成蹊大学で4年間で過ごした5人の学生たちに、
大学で成長できたこと、もっと身につけたかったことを
自由に話し合ってもらいました。
個性豊かな5人が語る「成長の軌跡」から、
成蹊大学の強みと今後の展望を紐解きます。

〈学生座談会実施の目的〉

- 学習成果を基軸とした内部質保証の実質化のために、成蹊大学のカリキュラムに対する学生からの意見を直接収集する場を設定
- 特に、成蹊大学のカリキュラムの中で「学生の成長に効果的なこと」と「学生の成長のために改善が必要なこと」を重視
- そのために、従来の学生による授業評価やアンケートではなく、学生同士での座談会形式で、自由な立場で意見を出してもらえるようなワークショップを実施
- あわせて、ワークショップの中で、学部を超えた交流を行うことで、学生自身では気付かなかった所属学部の特徴や、自らの成長を実感できるような効果も狙う

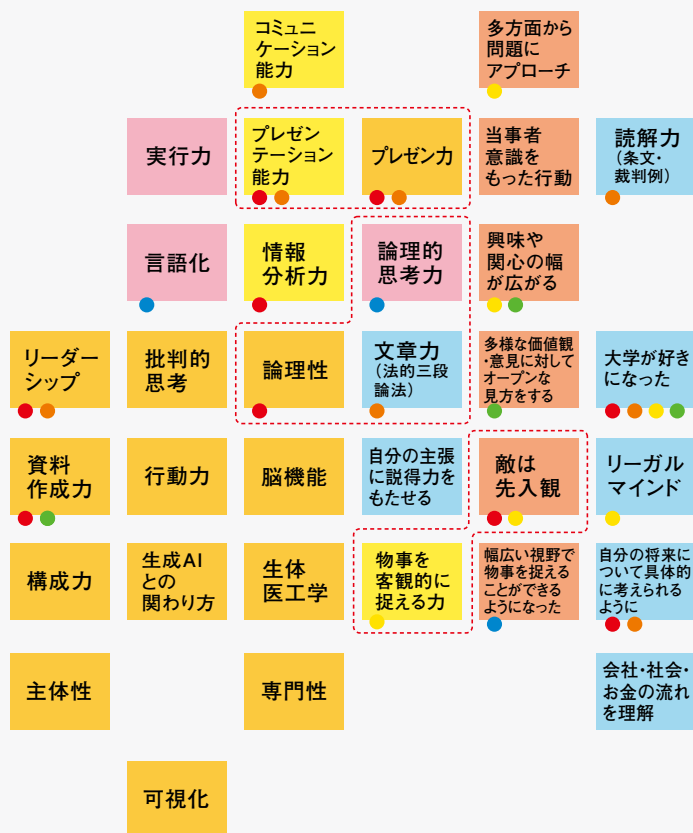
〈ワークショップの流れ〉

1	趣旨説明/自己紹介
2	個人ワーク「成長できた／もっと身に付けたかったことの可視化と共有」 →事前にアンケートで整理してきた以下の項目のキーワードを付箋に書き出す ①成蹊大学での学びを振り返って、特に成長できたと感じること ②「①」に役立った成蹊大学の授業など ③成蹊大学の学びを振り返って、もっと身に付けたかったと感じること ④「③」のために、成蹊大学の授業などへの改善提案
3	グループワーク①「成長できたことと、その要因」 →個人ワークで書き出した付箋を全員で共有し、それぞれの共通点や学部固有の特徴などについてディスカッションする
4	グループワーク②「もっと身に付けたかったことをできるようにするための改善提案」 →個人ワークで書き出した付箋を全員で共有し、それぞれの共通点や学部固有の課題について改善すべきポイントを提案する
5	まとめ・感想コメント

成蹊大学の学びの中で

成長できたこと

韓国語



もっと身につけたかったこと

現代社会

お金の仕組み

社会に出る前の基礎力

プログラミングスキル

各教科のディープな知識

大学施設を使った特別な体験

他学部の授業

異なる分野の学生との交流

聴く力

積極性

会計学

コミュニケーション

もっともっと英語力を伸ばしたかった

実務的な文脈の中で活用する経験

チャレンジ精神

類似意見
● 経済学部
● 経営学部
● 法学部
● 文学部
● 理工学部

*当日の付箋の内容と共感シールを再現

4年間の学びを 付箋に書き出して可視化

進行役 本日は、皆さんの成蹊大学での4年間の学びを「成長できたこと」と「もっと身につけたかったこと」の2つのテーマで振り返っていただきたいと思います。お手元に、色違いの付箋とシールを配付しました。

まず、①「成長できたこと」を、付箋1枚につき1つのキーワード(例:「批判的思考力」「コミュニケーション能力」など)を書き出してください。次に②「もっと身につけたかったこと」を、別の付箋にキーワードとして書き出してください。

進行役 それでは、書いていただいた付箋を前方のホワイトボードに貼っていきましょう。向かって左側が「成長できたこと」、右側が「もっと身につけたかったこと」となっています。

貼る場所はどこでも構いませんが、貼り終わったら全体を眺めてみてください。もし自分と似た内容の付箋があったら、自分の付箋を近くに寄せてみましょう。また、手元には付箋と似た色の丸いシールがあると思います。自分が書いたこと以外でも、「共感できる」「私も同じだ」と思うものがあれば、シールを貼ってってください。



それぞれの学部で身につけた専門性と 学部を越えて育まれた力

進行役 皆さんの付箋を眺めながら、率直な感想を聞いてみたいと思います。

では、まずは「成長できたこと」のセクションから意見交換を始めま

座談会に参加した 学生の皆さん



経済学部 現代経済学科 4年

私立八王子学園八王子高等学校 出身

成蹊大学で成長できた点:

「実行力」「言語化」
「論理的思考力」など。



経営学部 総合経営学科 4年

神奈川県立麻溝台高等学校 出身

成蹊大学で成長できた点:

「情報分析力」「プレゼンテーション能力」
「コミュニケーション能力」など。

しょう。全体を眺めてみての感想や、皆と話し合いたいポイント、あるいは他の方への質問など、どのようなことでも構いません。

経済学部 私はピンクの付箋を使いました。自分では4年間で、それなりに成長できたと思っていたのですが、皆さんの付箋と比べると、私の「成長できたこと」は数が少なく、逆に「もっと身につけたかったこと」の方が多いと感じました。皆さん、すごいなと関心しています。ただ、「論理的思考力」「実行力」「言語化」の3つは、この4年間でしっかり身についたと感じています。

経営学部 私は黄色の付箋に書き込みました。皆さんの付箋を見て、学部によって成長の内容に違いが出ているなど感じました。専攻分野が異なるからこそ、それぞれの専門性の強みが表れているのだと思います。私の場合、「情報分析力」や「プレゼンテーション能力」といった部分に成長を感じています。

法学部 私は水色の付箋を使いました。私が書いた「大学が好きになった」という項目に、他の4人も共感のシールを貼ってくれたのがとても嬉しかったです。ボードを見てみると、それぞれ専門的な内容もありますが、「論理的思考力」や「文章力」など、共通して挙げられている項目も多いですね。こうした共通の成長こそが、この大学の長所なのかなと感じました。

文学部 私は濃いオレンジの付箋を使いました。経営学部の方がおっしゃった通り、各学部の特色はありつつも、やはり共通する部分も多いですね。「大学が好きになった」という点に全員が共感しているのは、本当に素敵なことだと思います。

実は私、第一志望の入学ではなかったのですが、1年生のときは少し落ち込んでいたんです。でも、いろいろなチャレンジをしながら、過ごしていくうちに大学の様々な面を知って好きになりました。4年生になった今、みんなが同じ気持ちでいられるのが嬉しいです。

理工学部 私は薄いオレンジの付箋を使っています。今回、唯一の理系として参加していますが、自分の専門性を反映した内容(生体医工学や生成AIなど)をパッと書き出せたことに、自身の成長を実感しました。僕も文学部の方と同様、第一志望ではなかったですし、専攻に進むタイミングで、自分が学びたい学問がなくなってしまうという経験もしました。それでも4年間通い、結果としてこの大学を好きになれたの

は、とても良かったと思っています。

進行役 理工学部の方の付箋にある「生体医工学」といった言葉は、まさに理系ならではのですね。具体的にどのような研究をされているのですか？

理工学部 今、研究しているテーマは脳機能です。たとえば、騒がしい場でも相手の話が聞き取れるのは、脳の「注意」という機能が正しく働いているからです。脳卒中などでこの機能が損なわれてしまった方のリハビリテーションに関する研究をしています。

理工学部でも生体医工学を専門に扱う講義は多くありませんが、**櫻田先生**の「応用Pythonプログラミング」という、筋肉の信号でロボットを動かす授業が生体医工学に関連していました。必修科目ではありませんが、意欲があれば深く学べる環境ですね。

進行役 文系学部の皆さんは「生体医工学」は馴染みが薄いかも思いますが、一方で法学部の方は「大学が好きになった」きっかけとしての「成蹊を知る」という授業を挙げていましたね。これについて教えてください。

法学部 元学長の北川先生が担当されている授業で、大学の歴史を深く知ることができます。人気の高い抽選科目で、私は運良く履修できました。また、就職活動で三菱系の企業を受けた際、大学との縁(ゆかり)を調べていくうちに「こんなにすごい大学だったんだ」と再認識したことも大きいですね。また、学生スタッフとして、オープンキャンパスや入試の手伝いをするうちに、「いい大学だな」と実感することが多かったです。

進行役 「成蹊を知る」という授業は、他の方は履修されましたか？

経済学部・理工学部・文学部・経営学部 本当に人気で取れないんです。

法学部 そうなんです。倍率が高すぎて取れないというのは、学生の間でもよく話題になります。でも、せっかく素晴らしい歴史があるのに、それを知らずに卒業してしまうのはもったいないですよね。史料館の見学や成蹊学園に関するレポートを課するような授業がもっと増えれば、成蹊の精神をより多くの学生が共有できるのではないかと思います。「もっと身につけたかったこと」の付箋に書き込みました。

進行役 なるほど。もう一つの共通点として、学生スタッフの経験を挙げている方が多いですね。法学部の方、文学部の方、理工学部の方



法学部 法律学科 4年

東京都立工芸高等学校 出身

成蹊大学で成長できた点:

「文章力(法的三段論法)」 「読解力(条文・裁判例)」 「リーガルマインド」など。



理工学部 理工学科 機械システム専攻 4年

東京都立南平高等学校 出身

成蹊大学で成長できた点:

「論理性」「批判的思考」 「リーダーシップ」「資料作成力」など。



文学部 英語英米文学科 4年

東京都立北園高等学校 出身

成蹊大学で成長できた点:

「多方面から問題にアプローチ」 「幅広い視野で物事を捉えること」など。

は経験者とのことですが、具体的にどのような活動なのですか？

理工学部 オープンキャンパスや入試の運営補助です。オープンキャンパスでは、「コンシェル(案内)」「受付」「キャンパスツアー」の3つの役割に分かれて業務を行います。さらに、全体のまとめ役として学生スタッフの中枢を担う「サポートスタッフ」という役職もあります。

文学部 私はオープンキャンパスでコンシェルを担当し、トランシーバーで情報を共有しながらイベントに協力しました。入試の際も、試験監督の補助をしたり、受験生が不安にならないよう案内したりしました。大学の裏側がどう成り立っているかを知ることができますし、職員の方々と直接関わることが多いので、とても面白い活動です。

大学の授業で養成された プレゼンテーション力、論理的思考力

進行役 ホワイトボードを見ると、似たような能力を挙げている方が多いですね。例えば経営学部の方が書いた「プレゼンテーション力」に近いと感じるものはありますか？

経営学部 私の書いた「プレゼンテーション力」は、他の人が書いた「広い視野」や「客観的に捉える力」とも通じるところがあるかもしれません。経営学部では1年次の基礎演習からグループワークがあり、前期から発表の機会が与えられます。また、選抜制の「高度情報分析プログラム」では少人数の演習が多く、プレゼンを繰り返すなかで自然と身についていきました。

理工学部 理工学部でも、1年次の「アカデミックスキルズI」で書類作成やプレゼンの基礎を学びます。さらに、竹本先生の「人間工学」という授業では、「スライド1枚あたりの適切な情報量」といった実践的な理論を学びました。最終的には毎週のゼミで、自分の進捗を第三者にわかりやすく報告したり、学会発表では専門外の人にも伝わるように内容を落とし込む経験を経て、プレゼン力が身についたと感じます。

経済学部 現代経済学科でも、2年次に「プレゼンテーション演習」が必修であって、3・4年次のゼミに向けた準備をします。私が付箋に書いたのは「言語化」ですが、これにはプレゼン力も含まれています。自分の考えを言葉にして伝える力は、経済学部の学びの中で伸びた

と思います。

進行役 「論理的思考力」についても、近いものがたくさんありますね。経済学部での論理性とはどのようなものですか？

経済学部 経済学部の授業は、基本的にデータや調査に基づいています。たとえば国勢調査や企業銘柄などのデータを使い、プログラミングを用いて推計を行うこともあります。客観的な根拠に基づいてレポートやプレゼンを構成する過程で、論理的思考力が鍛えられました。元々、株やお金の流れに興味があって経済学部に進んだので、こうした実践的なデータ分析は魅力的でした。

法学部 法学部の場合は「法的三段論法」という考え方があります。私はこれを民法の授業で身につけました。これは就職活動でも役立ち、「御社にはこの力が必要だ。私はその力を持っている。だから私は御社に貢献できる」といった、説得力のある自己PRを組み立てる力につながりました。

理工学部 理工学部の研究発表では、背景から結論まで矛盾がないよう論理を固めないと、学会やゼミで指摘を受けます。私も指導教員の櫻田先生にしっかり指導される中で、ようやく質疑応答にもはっきり答えられる論理性が身につきました。

進行役 文学部の方の付箋にある「敵は先入観」という言葉に、多くの方が共感していますね。これはどのような意図で書かれたのですか？

文学部 これは伊坂幸太郎さんの『逆ソクラテス』という本に出てくる言葉なのですが、大学生活を通じて強く実感したことでもあります。私は「人って、偏見とか先入観を持っていることが、すごくあるな」って感じています。成蹊大学は他学部他学科の授業を履修しやすいシステムなので、私は社会学の授業なども積極的に取っていました。そこで新たに気づくことがすごく多かったんです。「絶対にこうだ」と思い込むのではなく、「もしかしたら違う見方があるかもしれない」とオープンに考える姿勢が大切で、先入観を捨てることでコミュニティも視野も広がると感じ、この4年間の成長として挙げました。

進行役 この「敵は先入観」という言葉に、経済学部の方も共感されていたね。

経済学部 はい。僕は就職活動で、有名大学の学生も多く受けるような企業を受けたのですが、結果として内定者の中でも特に高い評価



をいただくことができました。「周りをもっとすごいはずだ」という先入観で自分の限界を決めず、フラットな状態で挑んだからこそ出せたパフォーマンスだったと感じています。

文学部 私は面接がとても得意でした。それは「面接」と身構えるのではなく、普通に「雑談」をしに行く感覚で臨んでいたからだと思います。これは、大学で多様なコミュニティに飛び込み、多くの人と関わってきた経験があったからこそだと思います。

法学部 私は、大学で真面目に勉強してきたほうでした。就職活動の面接で何を突っ込まれても「こう考えたからこの授業を履修し、この成績を取りました」と胸を張って言えました。就職でも、成蹊大学はどんな大学の学生たちとも十分並んで戦える大学だと感じました。大事なことは大学名以上に、「大学で何を学んだか」ですね。

施設の活用機会と他学部の授業履修に不満を感じる場面も

進行役 素晴らしいお話をありがとうございます。ここからは話題を変えて、「もっと身につけたかったこと」や「大学への改善提案」について伺いたいと思います。法学部の方が書かれた「施設を使った特別な体験」とは具体的にどのようなことでしょうか。

法学部 成蹊大学には、有名な図書館や歴史ある本館大講堂など

素晴らしい施設がありますが、授業で使う機会はほとんどありませんでした。昨年、私は奨学金の贈呈式で初めて本館大講堂に入りましたが、あのような場所で発表する機会がもっとあれば、よりメンタルが鍛えられたのではないかと感じます。

また、学園内には馬術部の馬がいたり、史料館があったり、小学校から高校まで併設されていたりしますが、普通に過ごしているとそれらと触れる機会がほぼありません。せっかくの「成蹊学園」という環境や施設を、授業の一環としてもっと活用する機会があれば、大学に対する愛着も深まると思いました。

進行役 施設の活用とともに、「他学部の授業履修」についても課題があるようですね。

法学部 他学部の授業を受けようと思っても、シラバスの情報が十分でなかったり、学生間の口コミが届かなかったりして、履修する勇気が出ないんです。他学部の授業は一度申請が通ると履修中止できないルールがあるため、リスクを感じてしまいます。教務部の方などが、客観的な視点で「この授業はこういう内容で、こういう雰囲気だ」という情報を発信してくれれば、もっと果敢に挑戦できたのに、と思います。

経営学部 私もそう思います。他学部の異なる分野の学生と関わりたい気持ちはありましたが、情報不足で勇気がでませんでした。また、全学的プログラムの「MBT(丸の内ビジネス研修)」も興味はありましたが、準備講座等を通じて早くから対策している学生がいたり、ハードルが高い印象がありました。当時はまだ将来の展望が固まっておらず、結局、学部の授業に専念することを選んでしまいました。もう少し情報の周知や、気軽に挑戦しやすい環境づくりがあれば良かったと感じます。

進行役 経済学部の方は「コミュニケーション能力」を課題に挙げていましたね。

経済学部 僕は少し引っ込み思案なところがあり、皆さんのようにオープンに誰とでも会話できる積極性が持てれば、学生生活がもっと面白かったかなと思っています。ただ、学部の学びの中で機会がなかったわけではなく、単純に自分の適性の問題ですね。

進行役 文学部の方は「もっと英語を伸ばしたかった」とのことですが。
文学部 英語英米文学科では1年次の終わりに専門を決めます。私は文学を選んだのでイギリス文学などは深く学びましたが、スラングや、





時代による発音の変化といった「言語そのもの」への興味も強く、そこらももっと深めたかったという思いがあります。また、留学制度が充実している成蹊大学にいたのに、1か月のニュージーランド短期留学しか経験できなかったことも心残りです。もっと長く現地のコミュニティに滞在し、語学力を磨いたり、視野を広げる時間を持ちたかったですね。

進行役 成蹊大学はワンキャンパスに全学部が集まっているからこそ、「もっと他学部や専門外分野と関わりたかった」という声が多く出たのかもしれないね。一方で、経済学部の方は他学部への関心については控えめな印象ですが、いかがですか？

経済学部 経済学部はカリキュラムが非常に幅広く、Python演習から、民法・金融法といった法律系、さらには企業会計や英語まで揃っています。学部内であらゆる分野が完結していたため、あえて外へという意識が低かったのかもしれない。

進行役 学部の網羅性が高いゆえの特徴ですね。

5人が本音で語る 改善に向けた大学へのリアルな提言

進行役 ここからは、具体的な課題の解決策を話し合いたいと思います。まず、人気の抽選科目「成蹊を知る」について。この授業への関心は高いものの、履修できない学生が多いと聞きました。また、この科目はオンライン形式で開講されているそうですが、気になる点などはありましたか。

法学部 本当は対面形式が良かったのですが、オンライン形式であっても、教授一人の負担が大きいために受講者を絞らざるを得ないのかなと思いました。

進行役 次に、他学部履修のハードルとなっている「情報不足」についてです。シラバス以外にどのような情報があれば、より積極的に履修できるでしょうか。

理工学部 何より、学生の「ロコミ」が欲しいです。授業評価アンケートの結果は先生には届いていますが、学生同士では共有されません。例えば「食ベログ」のような点数評価や、学生視点のコメントが見られるコミュニティがあれば、成長を求めて難しい授業に挑むか、確実に

に単位を取るかといった判断もしやすくなります。

進行役 非公式な評価サイトもあるようですが、信頼性の面では不十分ですか？

理工学部 そうですね。僕が所属する専攻は新設されたばかりで、先輩からの情報が全くありませんでした。縦のつながりがない学生でも、講義の難易度や面白さを客観的に把握できるオフィシャルなしくみがあれば、他学部の授業にも挑戦しやすくなると思います。

文学部 それでいうと、教授の情報を集めて閲覧できるサイトをつくらうとしている学生団体があるようです。こうした学生団体の活動を大学が支援し、在学生や受験生にも公開されるようになれば、情報の壁は低くなるかもしれません。

進行役 建設的な提案をありがとうございます。それでは最後に、この90分間のワークショップを通じて感じたことを、お一人ずつお願いします。

経済学部 こうした場に呼ばれるとは思っていませんでしたが、皆さんのエピソードを聞いて刺激を受けました。就職活動は終わりましたが、今後に向けてモチベーションが上がる良い機会となりました。

経営学部 私は人前で話すことが得意ではなく、不安もありましたが、皆さんの積極的な取り組みを聞き、私ももっと挑戦していきたいという前向きな気持ちになりました。

法学部 私はこれまで自分の学部の枠内で完璧を求めて勉強してきましたが、皆さんの専門的なお話を聞き、もっとたくさん他学部との交流を持てば良かったという思いもあります。同時に、法学部で学んできたことへの自信も再確認できました。

文学部 他学部の皆さんとお話しできて純粋に楽しかったです。自分の成長や課題を可視化するワークも新鮮でした。「もっと身につけたかったこと」は、社会人になってからも磨き続けられるものだと思います。成蹊での成長を誇りに、これからも頑張ります。

理工学部 理工学部は関わるコミュニティが限られがちなので、文系の方々とディスカッションできたのはとても有意義でした。あらためて「この大学が好きだ」と感じる事ができ、参加させていただけて本当に良かったです。

進行役 皆さん、本日は長時間ありがとうございました。